

可能性を信じて行動をすれば グローバルにつながる

株式会社エーディエフ 代表取締役 島本 敏氏



株式会社エーディエフは、アルミパイプやパネルを使ってオーダーメイドで簡易ワークルームやクリーンルーム、物流機器などを製作する企業です。約9年前、あるきっかけでフィリピンへの海外進出に挑戦しました。フィリピンでは継続した事業にはつながらなかったものの、現在新たな挑戦をしておられます。2019年度に日中の会員になられ、来年はプラスワン委員会のメンバーとして活躍が期待される島本さんにお話を伺いました。

フィリピンで学んだこと

海外進出は、父親に「海外から日本を覗ろ」とさんざん言われていたので、いつかはという気持ちがありました。ある人から誘われたことがきっかけになり、その方を頼りフィリピンへ向かいました。現地で活躍する日本人の方をたくさん紹介され、人脈もできました。当初は、日本人の人脈で仕事もいくつか決まり、順調にっていました。ゴルフや日本人が集まる場所へ顔を出し人脈を広げていきました。

海外進出は「覚悟」が必要

2年ほどでしたが社員も現地に住ませ、家も借り、展示会などに出席したり、広告を出してみたりもしました。しかし2年目になって売り上げが全く伸びなくなりました。フィリピン人は器用で、いいものが出ると似たものを器用につくり、安い価格で販売します。品質はそこそこですが、安さに負けてしまいます。日本人には売れるけど、ローカルの企業などには全く買ってもらえませんでした。結局何が自分たちに足りなかったかというそれは「覚悟」じゃなかったかと思います。成功している日本人はそこがっかりと根つき、現地の人と人間関係を築きあげ、現地の女性と結婚するなどフィリピンでやっていく覚悟がうかがえる人が多いように思えました。

その土地に住まない絶対成功しないかというそうではないと思いますが、そういう「覚悟」があるかないかで、出会った人との付き合い方も全く違って来るのだとわかってきました。フィリピンではまだ突破口は見つけられずにいますが、出会った方々や、挑戦して得られた経験、そして知識は僕の貴重な宝物になっていると思っています。

新たな挑戦

現在弊社は、社員が自分たちで商品を考え、自分たちでPRまでも考えることができる仕組みにしています。その流れの中でいろいろな商品が生まれてきています。

海外へ商品をPRするために東京オリンピックになにか商品を入れたいと思い、ハラル基準を満たしたイスラム教の礼拝ブースをつくらせたり、会社案内やホームページも社員がつくりました。そんな中生まれたのが「同時通訳用ブース」です。これがある通訳機器を扱う会社の目に留まり、商品開発をすることになりました。試行錯誤の結果、大阪で行われたG20サミットに提案していただけることになり、10台を納品することが可能になりました。この商品がヨーロッパへ行くきっかけとなり、ヨーロッパの市場や企業を観る機会も得ることができました。フランス・パリでは、また新たな宿題を頂けたので、パリオリンピックも視野に入れた動きをこれからはしていきたいと思っています。

今後は

社員全員が海外戦略に興味があるわけではなく、それぞれ持つ夢や希望を社内で実現できる環境をこれからはどんどん作っていかうと思います。その先に弊社のグローバル化があるのかもしれませんが、しっかりと足元を固め、夢とロマンとビジョンを持ち続け「創意工夫」を何度も重ねることで、新しい分野に弊社のニーズを開拓していきたいと思っています。「可能性」を信じ行動をすれば、夢やビジョンにつながると思います。これからも精進し頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願い致します。

(記事・インタビュー 日中経済交流研究会 広報委員会)